

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4390100198		
法人名	社会福祉法人寿量会		
事業所名	グループホーム虹の家		
所在地	熊本市奥古閑町4296-1		
自己評価作成日	平成26年2月10日	評価結果市町村受理日	平成26年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成26年2月24日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

虹の家では開設して7年が経過しましたが、開設当初より在籍されとている利用者がおられます。この方々は入居当初に比べ認知面も身体面も徐々に重度化されており、自分でできる事が少なくなっていますが、開設当初からの「自分で出来る事は自分で」とのケア方針に沿った支援により、機能の低下はあつても「自分らしい」暮らしを今も継続されています。「家」の前は小学校の通学路です。児童の通学の際には朝の挨拶運動を行い、帰りには下校を見守っています。また、年6回は子供たちを迎えてお菓子作りを行っており、多世代間の交流により子供たちの笑顔に元気をもらっています。又、認知症はあつても地域の住民の一人として、地域行事などに参加しています。最近の取り組みとして、グループホームの中に地域の方を招いて、ボランティアによるミニコンサートなどのイベントを行うようにしました。そのような中、収穫した野菜を届けて頂いたり、美容室では利用者の散髪が終わるまでは見守っていただいたりと、近隣の方にグループホームを理解していただき、地域の中をでの交流が進んだように思います。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

毎月1日・11日・23日を介護を振り返る日としている。管理者と職員は理念を共有し、たつぷりと利用者に向き合い、利用者のためにじっくりと考え、利用者のゆっくりなペースに合わせたケアを実践している。この積み重ねが利用者の穏やかな表情を引き出している。積極的に地域との交流を図る中で親しみのある挨拶や会話が生まれ、利用者の生活の幅を広げ心を豊かにしている。近くの小学校の児童の登下校時には玄関口に出て、手を振りながら「気をつけてね」「ありがとう」といった言葉を交わすなど、心温まる光景が見られた。地域の中でお互いに支え合い、地域の一員であることを実感しながら生活している。世の中の変化や時代の流れの中で、ニーズを把握し的確に対応するたするために、毎月行われる母体法人の各種勉強会に参加してスキルアップを図ることで、サービスの質の向上に繋げている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のもとで時間にとらわれずに入居者の方と関わる事でその人らしい暮らしが継続出来る様に支援する事を目指しています。毎月1日11日23日には入居者のペースでゆっくり生活が出来ているかを職員の振り返る時間を作っています。	理念は「じっくり・たっぷり・ゆっくり」のケアを重視し、落ち着いた暮らしが実践されていることが伺えた。毎月1日・11日・23日には「この町で安心して生活できる」と染め抜いたTシャツを着て、理念に沿ったケアが出来ているか振り返りながら、気を引き締めてケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家の前が通学路の為、暖かい日は子供達の学校の行き帰りの様子を見守ったりしています。又、地域の美容室やスーパーも利用しています。ご近所から野菜を頂いたりして地域の方と顔なじみのお付き合いをしています。地域の公民館でのイベントコンサート等に参加し交流を図っています。	中庭で開かれるボランティアによるサックスやオカリナの演奏を地域住民と一緒に楽しんだり、「どんどやがあるよ」と地域の方にお誘いを受けたり、散歩に出かける等、地域住民と気軽に会話を楽しんでいる。ホームにはご近所から届けられた季節の花が至る所に飾られていることから、気さくな交流がなされていることが実感できた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご入居の相談や見学をいつでも受け、今困っておられる事についてグループ全体で考える様にしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回。入居者の普段の様子や参加行事・疾病等を資料にまとめて、生活の様子を報告している。地域の方より“社協だより”や地域のイベント情報が記載された広報誌を頂き、その広報紙を通じてご入居者にも地域の活動を知って頂くように活用しています。又、地域の方より地域の行事を伺い、ご入居者と一緒出来るだけ外出する様に心掛けています。	参加者から地域行事の情報が多く寄せられ、利用者の活動の機会を増やしている。地区の高齢者の介護状況の情報を得る中で、ホームへ遊びに行きたいという要望に応える等、密なコミュニケーションが相互に交わされている。地域の敬老会では、一番前に席が準備されて、利用者が温かく迎えられ、地域の方と一緒にお祝いに参加することで、地域の一員であると実感していることが伺えた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に介護相談専門員の方の訪問を受けて、ご入居者の思いを聞いて頂きケアの中に活用しています。行政の取り組みや制度を伺い、情報として取り入れています。	市の介護相談専門員の訪問があり、日ごろ語られることのなかった利用者の想いを聴き取り大切に、その情報をケアに活かしている。地域包括支援センター職員から情報誌を届けてもらう際、情報交換がなされている。母体特養が行政との窓口になっており、特養を通じて行政からの情報を得るなど、連携が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人グループ全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいます。又、身体拘束の勉強会を行うことで職員全員が拘束の内容を理解しています。入居者の思いを、その時に叶えるケアを心掛けています。	テーブルに椅子を近づけること、外に出ようとする人を制止すること全てを拘束と認識している。転倒を心配する職員には、しっかりと見守りをするのが転倒防止に繋がることを伝えている。利用者が外を眺めている場合は、外出したいという想いを一早く察知して一緒に出かけ落ち着きを促す等、具体例を示して、現場で解りやすく指導することで拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行っております。職員全員が虐待防止への理解はあります。ケアを一人で悩まずに皆で話し合って解決する職場環境にも努めています。又、意見が言いやすい環境を整える様に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名の入居者の方が利用されております。職員間では制度について勉強を行い内容の理解を深めています。ご本人は認知症があらわれるため、毎回、熊本市社会福祉協議会より訪問頂く際は、職員から状況を説明し理解して頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にしっかり説明を行っています。又、何か疑問点やご不明な事がないかについては、面会時や随時の電話連絡にて確認して頂くようにお伝えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者やご家族の希望に関しては、思いを叶える様に皆で方法を考えています。今まで苦情はありませんが苦情申出窓口を設置して苦情などを外部へ表せる体制を整えています。ご家族に安心して頂けるように、毎月(15日)、写真や手紙で生活の様子を知らせています。	毎月15日に請求書と一緒に利用者の日ごろの様子を写真や手紙で家族に知らせることで、家族の安心につなげている。家族の面会も多く、職員は笑顔であいさつするように心掛け、意見要望を伝えやすい雰囲気を作っている。家族アンケートの結果、全家族が「意見を言いやすい」「訪問しやすい」と回答していることから信頼されていることが伺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が「ご入居者のケアや季節の行事」等で悩んでいる場合は一緒に考えたりしています。意見の言いやすい環境を作っております。話しにくい内容については母体施設の役職者に相談出来る体制を取っています。	管理者は施設のメイン行事の企画を職員らに考えさせる方針である。新しい企画に苦慮している時は職員らの考えを尊重しながら、良いアイデアを導くようさりげなくアドバイスしている。職員同士の会話から個人的な悩みや仕事上の悩みを伝え聞いた場合は、管理者が積極的に声を掛けることで、職員にとって相談しやすい頼れる存在となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境を目指しています。職員各自の夜勤の回数を確認して、勤務体制に無理がないかを聞き取っています。又、体調を崩した時は気兼ねなく療養が出来る様に職員全体でフォローしています。ご家族の感謝の言葉を伝えたり、仕事の大切さ、ご入居者の思いを話して、職員のやりがいに繋がっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体の職員研修で認知症や感染症・介護・地域について学んでいます。ホーム内でも再度認知症・感染・拘束等色々勉強の機会を作ったり、普段のケアの中で対策や方法を話し合い進めています。介護体験が浅い職員に対しては別に相談・話し合う機会を設けて、不安がある面をフォローを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本市のブロック連絡会議に出席して、同業者との交流の機会を持つ事が出来ます。会議で得た情報を職員に伝えて、必要と思う時は勉強会を設けて、ケアの悩みや行動障害の対策方法等学び知識の向上となっています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前にご本人・ご家族と会い情報収集やグループホームについてご理解頂く様にしています。又、担当ケアマネージャや今までご利用されている事業所からもご本人の身体状況・精神状態や好きな食べ物・嫌いな物・趣味等情報の収集を行い、ホームで安心して生活出来る環境を準備しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前に訪問したり、ホームの見学に来て頂き、実際に使用する部屋や雰囲気を見て頂いています。準備する物やご家族の不安な事・要望等を聞き、ご家族思いがケアに活かせる様に準備しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けても直ぐに入居が困難な為、現在の状況やサービスの利用状況を確認して担当ケアマネージャと一緒に今後について検討している。又、担当ケアマネージャがいない時は居宅支援事業所に繋がっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯物たたみ・汁物作りや食器の後片付けを一緒に行うなど役割分担が出来ています。又、ご入居者同士できない所を、他の仲間が手助けをする等の関係が自然と出来ています。一緒に笑い・楽しみ・泣いたり家族の様な関係は築けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何でも職員がしてしまうのではなく、ご家族にも役割を持って頂いています。一緒に受診を行い、家の行事(餅つき・法事)等にはご本人が活躍出来る環境があります。又、面会時にはご家族とゆっくり出来る環境・時間を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで利用していた美容室・店・病院等を利用する等、これまで大切されてきた場所を途切れない様にサポートして、その場所でなじみの関係の方とあつて話をしたりと、今までの関係が継続出来る支援をしています。	利用者は事業所の支援で、行きつけの美容室を利用しており、更に買い物・通院など行動の範囲を拡大し、馴染みの人・場所へ出かけている。昔馴染みの友人に「よかならきなっせ」と声をかけられ、良い関係が続いており、昔からの関わり支援の成果が笑顔となって表れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者個々の生活を大事にしながら、食事やお茶等をみんなでゆっくりする時間を作っています。仲間の食器を台所まで運んだり、掃除や片付け等出来る方が手伝われる。仲間同士で自然と「ありがとう」と感謝の言葉が掛け合う関係となっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族と連絡を取りながらに身体状況を確認します。ご家族の希望を把握して同法人の特別養護老人ホームご入居への相談・手続きをサポートしています。ご入居後もご利用者と面会に行ったり、ご家族の相談にのったりしています。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望には、出来るだけその時に叶えるようにしています。行事への参加もかたくなに拒否される時は無理せずに柔軟に対応しています。困難な場合はご家族から情報を聞いてご本人の思いに沿うように努めています。	利用者の表情や言動の観察から想いを把握する他、家族の情報を基に利用者の想いを把握するよう努めている。利用者の中には息子さんの名前が出てきたら「お墓参り」「お父さん」と言ったら「会いたい」のサインとなる人も…。利用者のその時その時の想いを推察して、希望を叶える支援に努めている。	
----	-----	--	---	--	--

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで、生活して来られた場所・環境を確認し、暮らし方についてはご家族や普段の会話から情報を集めています。ご本人の興味ある物を目につくように準備しご入居者の生活を見守っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の出来ない事ではなく「出来る事」「出来るのではないか」を視点に職員全員でその方の事を考えケアプランに生かしています。「出来る事」がいつまでも継続出来るように、ご本人のペースで生活を支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにはご家族は中々参加できないが、面会時や随時の電話連絡にて意向の確認を行っています。ご入居者の「出来る事」「出来るのではないか」をケアプランに盛り込み、ご本人の力を生かした自立支援が出来るようなケアを目指しています。	「出来るのではないか」を前提に、出来る事を確認し利用者の能力を活かして、その人らしい生活が送れるよう配慮している。プランの作成の際は、難しい言葉は使わず、解りやすいプランにすることを心掛けている。利用者に変化が出た場合は、すぐプランの見直しを実施。現状に即したプランに変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はご入居者の生活の様子がわかるように「出来た」「出来なかった」ではなく、困っている様子やその時のご入居者の言動や状況が分かるようにしています。申し送りや連絡ノート等で情報の共有を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設の理念の中に「その人らしい暮らしの支援を目指します」とあります。ご本人やご家族のニーズがある事は職員にとって嬉しいことです。職員はニーズを叶えるための方法を考え全力で支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容室に出掛け時間がかかる場合はお店の方に見守って頂いております。地域の祭りやコンサート・お花見などの外出行事にはボランティアの協力を得ながら暮らしを支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居前のかかりつけ医を継続している。グループホームに主治医の往診をしてもらい自宅にいた時と同じような対応が来ています。又、受診はご家族・職員とで協力しながら対応。受診に関わる事で日頃の様子が説明できています。急変時には母体法人のクリニックで対応できる体制が出来ています。	在宅からのかかりつけ医を継続し、自宅にいた時と同様に往診を受けることで、利用者の満足度を高めている。受診時の付き添いは家族が基本となっているが、都合により職員が付き添っている。緊急時には隣接する特養の看護師の応援態勢が整っている。また併設クリニックでの受診が可能で、利用者・家族の安心につながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご本人は体調の異常を訴えられない為、バイタルチェックを行い普段の状態を観察しています。又、母体の看護師と連携を行い、看護師は24時間体制で急変時に対応できる様にしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に対しては普段の生活の様子を医療機関への情報提供をしています。又、入院中に職員が食事時間に合わせて面会に行き食事面のフォローをしています。頻回に合う事で状態も把握でき、又、医師やご家族との連携も図れます。退院後の生活がスムーズに運べる様にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	母体の看護師や同法人の病院の医師へ24時間連絡ができる体制をとり、体調管理に努めています。契約時の段階で医療体制については説明しています。体調の変化の際にはその都度、ご家族に状態を連絡します。普段から連絡を取る事でホームの中で病気のご入居者の対応を理解して頂いています。	入所時に医療体制や看取りについて説明を行っている。現在まで看取りは1例対応の経験を持つ。日ごろから利用者の健康状態の変化について、家族への説明を重視し、重度化した際は家族との話し合いが随時持たれ、終末に向けた意向を確認した上での対応が行なわれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法や予想できない急変(誤嚥・止血方法・骨折・火傷)等については応急処置の方法については勉強会を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーを各部屋・家全体に設置し、安心できる環境を整備しています。又、夜間帯・昼間の火災・自然災害を想定しての避難訓練や防災についての勉強会を行っています。地域の協力体制については、ホームの両隣に関しては訪問した際に協力を声かけを行っています。又、非常通報装置の設置で隣接する特別養護老人ホームやケアハウスに避難の協力が出来る体制が整っています。	火災や地震・水害等の自然災害を念頭に、避難誘導の方法等、冷静な判断や行動が自然に身に付くように常々職員同士で対応を検討している。尚、地域での地震による津波を想定した訓練に参加し、「何かあったら大きい声を出しますから」など呼び掛け、日ごろから地域住民に協力を依頼しており、日常的な連携が構築されている。	

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを心掛け、尊厳を持って言葉掛けや対応等プライドを損なわないように、ご利用者の気持ちをそのまま受け入れるようにしています。「できる事をいつまでも継続できるように」「ご本人のできる所を発見できるように」とご利用者の自立を尊重した関わりができる様に努めています。また、入居者のプライバシーを守るため、排泄や入浴時は個別の対応をしています。職員にも定期的にプライバシーに関する勉強会を行っています。	言葉使いに関しては、一人一人の利用者に合わせ馴染みのある熊本弁が使われる事もあり、方言も、温かみのある言葉が使われている。利用者の声に耳を傾け、否定せず、プライドを傷付けない対応を心掛ける等、管理者は現場で職員に具体的な指導を行っている。職員の優しい表情や言葉遣いから、利用者を尊重する意識が伝わってきた。	
----	------	--	---	---	--

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中で入浴・外出時に洋服の準備を一緒に行い、自分で選んで頂くなど自分で決める場面を多く作っています。又、希望に対してはその時に叶える事を目標にし、自分で伝えられない方にはじっくり関わる事、ご家族の方に協力を得て思いを叶える様に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中で食事の準備・片付け・洗濯物たみ・縫い物を手伝う方、部屋でのんびりする方と出来る限り、一人ひとりのペースを守る支援を心掛けています。行事やイベントの際には、職員のペースにならない様に職員配置を多くして対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容室を利用してご本人の希望の髪型にってもらったり、洗面台にクシや化粧水を準備して自分でセット出来る環境を作っています。また、爪きりやマニキュア塗りも行い、ご本人に喜んでもらっています。他にも、ご家族よりご本人に似合う服を準備してもらい、家の中での行事や外出の時は一緒に服を選びおしゃれを楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	汁物は自分達で作っています。時には得意なだご汁を作ったり、準備や片付けも職員と一緒にしています。また、自分達で作った野菜や近所から頂いた新鮮な野菜を調理、梅干や漬物も作り食事を楽しんでいます。おやつ時も手作りで芋万十や団子等を一緒に楽しみながら取り組んでいます。	利用者の自主性を引き出す声掛けに努め、意欲的に活動へ参加頂いている。近隣から差し入れられた季節の野菜を漬物作りや梅干し作りに利用する際、お年寄の知恵や技が貢献している。団子汁の得意な利用者は朝から団子の粉をこねていた。こね方について熱心に説明される表情は生き生きとしており、利用者が主体性を持って、自らの能力を活かせる支援が行われていることが伺えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の管理栄養士が栄養を考えた献立になっています。午前・午後とお茶の時間を作り仲間と一緒にお茶を楽しんでいます。季節によってアイスクリームやゼリー等水分が摂れる様に工夫しています。水分量についてはチェック表で確認しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けの方・見守りの方・介助が必要な方と、個々の力に応じてケアを行っています。口臭もなく食事の摂取は良好である。ケアの際には義歯の状態を把握しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員一人で介助したり、二人で介助したりと個々の力に応じてトイレでの排泄ケアを行っています。移動状況や殿部を摩って刺激したり、水の音を聞かせたり個々の特徴を踏まえ、オムツに頼らないトイレでの気持ちよい排泄が出来る様に支援しています。	トイレの声かけをしても、利用者が拒否される場合は無理強いせず、時間をおいて再度声かけし誘導する。たとえ失禁があってもさりげなく対応し、プライドを傷つけないよう配慮する。利用者が外を見たりそわそわする時はトイレのサインなので、さりげなく声かけ誘導する。夜間のトイレ誘導時には部屋を暖かくして声を掛ける等細やかな気配りをして、排泄の自立に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤で排便をコントロールしているご入居者が2名おられます。服薬管理は職員が行っています。下剤以外にも水分の管理や牛乳・ヨーグルト・果物・繊維の多い食材を使った食事に工夫しています。又、運動にも心掛けている。腹圧がかかりやすく、又、排便がしやすい姿勢(座位)での排泄を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、お風呂を準備しています。1日おきの入浴を目安にしているが、希望があれば入浴の日でなくてもご利用者の希望を叶えています。1日入浴デイや菖蒲湯・ゆず湯・温泉めぐり等のイベント入浴を楽しむ工夫をしています。	入浴の声かけをしてもその時の気分で拒否される時は、無理に勧めず、しばらく時間をおいて再度声掛けしたり、翌日に変更する等、本人が入浴したい気持ちになることを大切にしている。外出の機会のない梅雨時は一日中いつでもゆっくり入浴できる「1日入浴デイ」を設けたり、入浴剤を使って温泉気分を味わってもらう等、入浴を楽しんでもらう工夫がある。時には趣を変え、広く窓を取った檜風呂から金峰山や田園風景を眺めての四季を感じながらの入浴は、更に満足 of いくものとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、自分の部屋でゆっくりする方は見守り、自分で上手く休息を訴えられない入居者の方には身体の状態を把握して(座位姿勢等で)部屋での短時間ゆっくり休息の時間を作ったりと、個々の状態に応じたケアを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容についてはファイルを作り内容が把握しやすいようにしています。内服の管理は職員が行い、与薬前には名前の確認をしています。袋を渡せば飲まれる方、手渡しする方と、口に運び飲んで頂く方、と個々に応じた支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・食事の準備・片付け・洗濯たたみ等、ご入居者が出来る事は見守っています。職員はご入居者の頑張り「ありがとうございます」の言葉を掛け、生活の張りに繋がればと感じています。又、誕生会や季節の行事等を通じ、生活の中で楽しみの支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩やお地藏さん参りなど外出の機会を作り、周りの景色や季節を感じてもらっています。外出行事の花見や紅葉見学などはボランティアの方のご支援を頂き行っています。又、地域の祭りやコンサートの情報を集めて出掛けています。	花の便りを聞きつけては、梅・桜・コスモスといった季節の花を愛でるために、天候を見ながら柔軟に外出を企画。近隣住民の知らせや情報誌のイベント情報を基に祭りやコンサート等へ積極的に参加し気分転換を図っている。お地藏さん参り・散歩・買い物・職員とともにチラシ配りを行う等、日常的な外出支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の中には小銭を自分で管理されている方もいます。自分で管理できない方でもご家族の方からの預かり金で買い物を楽しんでもらい、自分でお金を支払ったりしてお金を使う支援をしています。ご家族やご本人やご本人は定期的に使用したお金の用途を確認して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中お見舞い・年賀状などは、一緒にはがきを準備して家族に送っている。字を書く事が苦手なご入居者にも手作りでスタンプを準備してご本人に関わってもらっています。ご家族や親類、友人からの電話が見られ、ご本人に代わると会話を喜ばれています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者と一緒に台所に立っても混雑しないほどスペースが確保出来ています。リビングには、カレンダーボードで日付、曜日がわかる様に、又、季節が分かる写真を飾ったりしています。居間はコタツを準備していつでも寝転がったりと皆様にくつろげる様になっています。	玄関・リビング・廊下など至る所に椿や菜の花などがさりげなく飾られ、お雛様が飾られ、季節感にあふれている。茶室には茶の湯のお道具が用意され、管理者の御点前により、一服のお茶で心落ち着くひと時を過ごすこともできる。あちこちにデザインの異なる椅子とテーブルがある。その時の気分に合わせて、外の景色を楽しむもよし、おしゃべりするもよし、一人ゆっくり過ごすもよしと自由に過ごせる空間がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室の間にセミパブリックスペースが設けて有り、気のあった仲間と話ができます。時々仲間同士で話しをされています。その際は職員が見守りしています。スペースには本や季節の飾り物を置き自然と集まりやすい工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力で使い慣れた家具(タンス・ドレッサー・コタツ・テレビ等)を実際に使用しています。コタツにゆっくり足を伸ばし新聞を読んだり、寝転がっている場面が見られます。今後も居心地良く過ごして頂ける工夫をします。	お気に入りの椅子やテーブル、かわいい人形や歩行器、家族写真等があり、それぞれに自分らしくくつろげる部屋になっていた。ベッドの苦手な利用者には和室を用意し、今までと変わらない環境の中、居心地良い生活が送れるよう配慮している。それぞれの部屋は明るく窓からは四季折々の風景を楽しむこともできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入り口に柄の違った布を貼り部屋がわかりやすい様にしています。部屋の中にトイレと洗面台を設置して場所が分かる様になっています。精神的に混乱がある場合は夜間、電気を点けて場所が分かりやすく工夫するなど、自分のトイレを利用出来るようにしています。色々な場面で自立に向けて考えています。		